事業実施の 目的

事業内容

・成果

(R4年度)

就学前施設での学びを小学校へつなぎ、その学びを伸長するため、気軽に対話できる教職員関係を構築し、子どもの学びを共有しながら「接続期カリキュラム」を作成、実施、改善していく持続可能な連携・接続の方法等を開発するとともに市内全域に広める。

1. 主な取組内容について

【架け橋期のカリキュラム開発会議】

- ・開発校区(3校区)、架け橋コーディネーター、大学教員、香川県教育委員会、高松市教育委員会、高松市健康福祉局の担当者で構成
- ・全体:2回(趣旨説明、連携・接続状況把握、成果報告等)、校区別:3回(事例研究・交流活動・保育参観と協議)

【架け橋期のカリキュラム】

- ・「子どもの学びトークシート」「交流シート」等で共有した内容を各校区の接続カリキュラムへ反映
- ・「交流シート」を活用して、交流活動の計画、実践、評価、改善を行い、互恵性のある交流活動を展開

【園・小学校における体制】

- ・B校区:各施設の取組や課題を共有し協働する管理職定例会議(中学校区)を実施
- ・「連携・接続のスモールステップの指標」をもとに、連携・接続の状況や課題、取組について共有

【自治体における体制】

- ・コーディネーター、事務局担当者が、開発校区会議の事前、事後の協議にファシリテーターとして参加、助言
- ・幼児教育や小学校教育担当指導主事が、校区別会議で指導
- ・「子どもの学びトークシート」等の活用方法の周知、研修の実施(オンデマンド・管理職研修会・合同研修会)

2. 主な成果について

- ・子どもの姿を「3つの資質・能力」の視点から多面的に捉え、校区の子どもを理解し、共有することにつながった。
- ・交流活動は、子ども理解を深められる等、連携・接続に大変有効であった。地域の豊かな題材を生かすことを共有した。
- ・コーディネーターと事務局職員が連携して、各校区の教職員の関係づくりをサポートしてきたことで、教職員同士が気軽に対話できる関係性や主体性が築けた。

事業実施 【協力園校】 地域・ 公:幼稚園

協力園校

(R4年度)

公:幼稚園1、こども園2、保育所1、小学校4

私:幼稚園1、保育園1,

今後の目標 (R 5 年度)

- ・育ちを支える支援や環境について好事例の共有
- ・学びをつなぐ「スタートカリキュラム |の改善
- ・管理職の理解と学校・施設の連携体制づくり
- ・必要な時に連携できる体制、時間の確保(ICT活用)
 - 必安は時に建携できる体制、時间の唯保(ICI活用)
- ・開発校区の実践の分析(要件の明確化)と発信

【高松市】

架け橋期のカリキュラム(案)

R5.5時点

- ○必須内容「子どもの実態と育てたい力」と「共に育てたい子どもの姿」・・校区で共有する
- ○【子どもの実態に即したもの】【協働して子どもの学びをつなぐ】ためのカリキュラムとなるためのポイント
 - ・実際の子どもの姿から捉えた「子どもの学び」や、その子どもの学びを支える「具体的な環境や支援」について教職員間で共有したことを毎年見直し書き込んでいく。
 - •「余白」を作ったり、「実際の子どもの意見を記入するスペース」をつくっておくなど、各校区で工夫する。
 - ・具体的な生活や遊び、学習の状況がわかるもの(交流シート・トークシート・写真など)があれば添付し関連づける。

